

1. 高崎・安中地区の果樹産地活性化

(対象：西部農業事務所普及指導課)

【評価できる点】

- (1) 地域の主力作物であるナシ、ウメに絞った課題設定であり、また、目標（改植、天敵導入）に対する実績もほぼ達成しており、これからの成果に期待できる。
- (2) ウメ、ナシの加工品開発には、引き続き取り組み、観光地における土産品になるような商品を期待する。
- (3) 今までの経験を生かして試行錯誤しながら、目的に向かっていく姿勢は評価できる。

【改善・強化に向けた検討事項（意見・要望と対応策）】

1 課題や目標設定に関すること

◆意見・要望

- (1) 産地としての担い手不足、生産性の低下などの対策は、中長期的な問題点として取り組んで欲しい。
- (2) 一部の特産品に焦点を当てているが、他の作物も取り上げて欲しい。
- (3) ナシ、ウメでの温暖化に対応した栽培方法や外来生物への対応を、引き続きお願いしたい。

◆意見・要望に対する対応策

- (1) 果樹産地の担い手対策は重要な課題と捉えています。
引き続き、該当地域を重点に中長期的な担い手受入体制を整備するとともに、耐暑性及び生産性に優れ、消費者ニーズにマッチした優良品種への改植・新植を推進し、産地維持につなげていきます。
- (2) 今回は、ウメとナシを主体とした取り組みを報告しましたが、他品目ではスモモにおける除草作業等の省力化を目的に、「スマート農業」の導入推進を図っています。引き続き、樹種ごとに課題を整理して取り組んでいきます。
- (3) ナシにおける地球温暖化への対応としては、消費者ニーズを反映しつつ近年の気象変化に対応するため、高温に強く、かつ現地適応性が認められた優良品種への改植について、生産部会や関係機関と連携して取り組んでいきます。
続いて、難防除害虫の対応については、令和2年に管内で初めてクビアカツヤカミキリが確認されて以降、発生地域・発生量が拡大しています。引き続き、関係機関と連携しながら、効果的で効率的な拡散防止対策を講じていきます。また、モモヒメヨコバイについては、同年9月にウメで初確認されて以降、ウメやスモモで被害が急増しています。そのため、本虫の防除実証ほを設置し、発生消長や防除対策の実証を行い、実績検討会等を通して防除体系の確立を目指していきます。

2 活動内容に関すること

◆意見・要望

- (1) ウメの収穫実習の受け入れなど、地域の農業者へ周知されていないように感じた。

また、次年度以降の学生との協力体制や成果をどう現地へ周知するのか。

- (2) ウメ、ナシの加工品開発は引き続き行って頂きたい。学生主体の取組のきっかけや成果がよくわからなかった。企画段階から学生以外の料理講師、マーケティングアドバイザーなどのメンバーを入れ、市場調査をしてから開発する方法も重要。

◆意見・要望に対する対応策

- (1) 今後、JAを通じて部会内の周知が行われるよう調整していきます。また、次年度以降、2か年実施したウメ収穫作業で得られた成果や課題に基づき、新たな担い手・労働力確保の取組を進めていきます。
- (2) ブランディング支援事業（ぐんまブランド推進課）の市場調査などを参考に、産地PRの一貫としてウメ、ナシの加工品開発を継続して支援していきます。高崎健康福祉大学の学生と協力して若い世代のアイデアを取り入れつつ、市やJAを巻き込んだ継続的、効果的な企画・加工品開発を实践できるよう、努めていきます。